

---

---

GCOE NewsLetter

[No.44 2011/5/27]

---

gCOE講演会の開催について

次回のオープンレクチャーについて

2011年度第1回大学院学生海外派遣事業採用者について

「テキスト布置解釈学原論」（講義科目）の要約

「テキスト布置解釈学各論」（講義科目）の要約

第37回オープンレクチャーの要約

---

---

---

■ gCOE 講演会の開催について

---

講演者：宮川 繁 教授 (MIT)

題目：歴史と画像：Visualizing Cultures

日時：2011年7月7日（木）14:00時～

場所：文学研究科大会議室

（使用言語：日本語）

---

---

■ 次回のオープンレクチャーについて

---

2011年6月22日（水）18:00～

名古屋国際センタービル 15階 グローバル COE オフィスにて

講演者：重見 晋也 准教授（名古屋大学大学院文学研究科・電子テキスト学）

題目：未定

題目は決定次第 GCOE の Web ページでお知らせします。

---

---

■ 2011年度第1回大学院学生海外派遣事業採用者について

---

2011年度第1回大学院学生海外派遣事業に次の1名の方が採用されました。

百合草 真理子（美学美術史学 D2）

「イザベッラ・デステのストゥディオオーロ空間と絵画テキスト－図像プログラムに関する調査研究」

派遣先：イギリス、イタリア

---

■ 「テキスト布置解釈学原論」（講義科目）の要約

---

金山 弥平（2011年4月28日、5月12日）

“Emotions as Texts and Greek Philosophy as an Interpretation”

(28 April)

What distinguishes human beings from other apes? The bonobo can walk bipedally, use tools, make some use of fire, and communicate by means of signs. One of the differences is that human beings take the meat obtained by hunting back home, to eat together around the table with their dear family members or friends. We humans can bear our hunger, just by thinking about the joy of sharing the delicious food with our family. Besides, through having dinner together we talk together about what happened to us each day, trying to find the meaning of various important events, especially disastrous events.

At the beginning of the *Metaphysics*, Aristotle says, “All men by nature desire to know”, and in the *Politics* he defines man as “the political animal”, i.e. the kind of animal whose natural function is best fulfilled by living together and helping each other. This is exactly what distinguishes human beings from other kinds of animals. We try to interpret what happens to us by connecting things scattered apart and to create a story that bestows some meaning to each event in the whole structure of our life, especially in the framework of our life with other human beings.

One of the typical patterns of the story is that of a hero, who used to lead a prosperous life, and then under the hardship that suddenly falls upon him, he is ousted from his land. He roams around, but with the help of a few kind people he met during his exile, he grows up to be a whole new person, who can have compassion to a larger circle of people. Here we can detect the fully developed cases of the above mentioned two characteristics of men described by Aristotle.

In the process of evolution, we humans have developed the mechanism of emotions just in order to survive. Especially such negative emotions as fear, anger and sorrow have much value that assists our survival. However, we are the kind of creature that cannot survive without helping each other, and for that purpose it is essential for us to

find joy in helping one another. We are thus equipped more than any other animals with the mechanism for empathy, such as mirror neurons. This is why we find more happiness and joy in good relationship with others through gratitude and forgiveness.

(12 May)

The original meaning of philosophy is the seeking (philo-) for wisdom (sophy). But why do we seek for wisdom? According to the so-called *protreptikos logos* (exhortation to philosophy), we all seek for happiness. But how can we obtain happiness? Wealth, health, fame, and beauty are all neutral in this respect. Although they may be regarded as good by most people, they are neither good nor bad by themselves. If we make good use of them, they become good, but bad use results in our misery. And what enables us to make good use is wisdom, which is why we should seek for wisdom, i.e. do philosophy.

What kind of wisdom or knowledge can philosophy provide us with? The kind of knowledge gods have is an ideal for us. The Olympians have double focus of a bird's-eye view and a zoom-in view. According to recent studies of cognitive geography, we obtain through navigation the so-called cognitive map, which enables us to orient ourselves in our journey to our destination. The same thing can be said about our journey of life. What enables us safely to arrive at our goal of life is a kind of cognitive map, which allows us to look through obstacles to the destination. This was exactly the kind of knowledge Plato sought after through his philosophical enquiry.

---

■ 「テキスト布置解釈学各論」 (講義科目) の要約

---

● テキスト布置解釈学各論 IV

宮地 朝子 (2011年4月21,28日、5月12日)

「日本語学術テキストの展開とパラテキスト」

学術的テキストは、欧文・自然科学分野で顕著なように、厳密に規定された様式を持つ。恣意を排し客観的な主張と論拠の明示を追究する点でジャンルに即した様相といえる一方、主に文科系の日本語学術テキストにおいては、縦・横書き、序・献辞・謝辞・あとがきやその情緒性の有無等のパラテキスト的要素に多様性が認められる。本文の文体的個性とともに、分野・学派・理論的立場の表明として機能し解釈を方向付けている。

この背景として、一つには、近世までに確立し明治10年代頃最大限分化した、

文体・書体・文字種・判型等、ジャンルや対象読者等に応じたパラテキストの対立的様相とその維持が挙げられる。言文一致体の確立や近現代の言語政策を経た後も、幅広い分野での積極的な借用語の採用、複数の文字種の維持、厳密な正書法の不在によって継承されている。

また、語用論的モードの強い日本語においては、話手・聞手（表現者・解釈者）が共在する話し言葉と共在しない書き言葉の乖離が、場面情報の参照利用の可否において大きい。一人称主語非表示、コトガラ視点の多用、デス・マスや終助詞の忌避など論文執筆上の注意事項は、一様に解釈者との非共在という語用論的制約ゆえの現象面といえる。この共在／非共在の構図は、解釈者の存在や知識の共有を前提とした言語形式（共在マーカー）の、表現者による使用不使用によって操作可能であり、この操作の幅が、学術テキストを含む書き言葉の文体的個性に直結する。このような語用論的場面条件に基づく知見は、パラテキストという観点のみならず、解釈の変化や多様性を説明する動的な解釈モデルの構築に寄与する可能性が大である。

#### ● テクスト布置解釈学各論 V

池内 敏（2011年4月20,27日、5月11,18日）

「竹島／独島をめぐる日韓間の論争を素材に」と題して、①『隠州視聴合記』（1667年）に見える「此州」の解釈をめぐる論争(4月20日)・②朝鮮王朝期から大韓帝国期に至る古文献・古地図に見える「于山島」の解釈をめぐる論争(4月27日)・③17世紀末の安龍福なる人物の評価をめぐる論争(5月11日)・④近代に入って竹島／独島をどのように認知したかをめぐり論争(5月18日)をとりあげて、歴史史料の解釈をめぐる議論を紹介し、出席者と意見交換を行った。

①では、『隠州視聴合記』冒頭に見える「此州」が、「隠岐国」「鬱陵島」いずれを指示するかをめぐる議論を紹介した。従来、『隠州視聴合記』全文を通読するのではなく、冒頭の一部のみを抽出して解釈と議論を重ねてきたことが誤読を招いたことを指摘した。②では、一部の史料を根拠に古地図・古文献上に現れる「于山島」がすべて竹島／独島を指すと解釈する悪弊を指摘した。③では、現代韓国では竹島／独島を護った英雄とされる安龍福について、彼にまつわる史実を客観的に再評価した。その結果、恐らくはそうした英雄像は虚像であろうことを指摘した。④では、1900年前後の時期における鬱陵島民の生業について、当時の日本側・大韓帝国側の様々な史料をもとに復元を試み、大韓帝国勅令41号(1900年)で鬱陵島郡守の管轄範囲として指示された「石島」が竹島／独島を指すと解釈するのは困難であると指摘した。

---

## ■ 第 37 回オープンレクチャーの要約

---

2011 年 5 月 25 日 (水) 18:00～ 名古屋国際センタービル 15 階 グローバル  
COE オフィスにて

講演者：池内 敏 教授 (名古屋大学大学院文学研究科・日本史学)

題目：「竹島問題におけるサンフランシスコ条約等の解釈をめぐって」

1952 年に発効したサンフランシスコ平和条約第 2 章第 2 条(a)項は「朝鮮に対  
するすべての権利、権原および請求権を放棄する」と述べるが、放棄する島名  
として「竹島」が明記されない。この点に注意するとサ条約は竹島を日本領と  
認定したと解釈できる。一方、1946 年に連合軍総司令部が発した S C A P I  
N677 号・1033 号は、竹島を、日本から政治上・行政上分離をし、日本人の漁  
業および捕鯨業許可区域からも除外した。サ条約が S C A P I N677 号等を継承  
すると見る立場からは、サ条約では竹島が日本領から除外された (韓国領とな  
った) と解釈された。

近年の韓国では、「サ条約当該条文は竹島を日本領と認定した」と解釈した  
上で、そうした認定自体が不当であることを論証する傾向にある。サ条約は締  
結条文に落ち着くまでに幾多もの草案が作成され、そのつど、竹島が韓国領と  
されたり、日本領とされたり変転を重ねた。そうした草案変遷のなかで「サ条  
約は竹島を日本領と認定した」と解釈するのは、最終草案直前におけるラスク  
書簡の記述に負うところが大きい。ラスク書簡は、1905 年以来、竹島は日本が  
支配してきた事実があると明言するからである。

竹島を韓国領と見なす立場は「1905 年以来、日本が竹島を支配してきた」こ  
とそれ自体の歴史的経緯に疑義を呈し、日本領と見なす立場からは、その経緯  
を正當に評価する。「1905 年以来、日本が竹島を支配してきた」ことの歴史的  
評価は必ずしも容易ではなく、微妙な論点を様々に孕んでいることを最後に述  
べた。

次回のメール版 NewsLetter の発行は 2011 年 6 月下旬 を予定しています。

.....

GCOE 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」

Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration

<http://www.gcoe.lit.nagoya-u.ac.jp/>

---

NewsLetter No.44

発行：GCOE 編集部

編集担当：平野克典

Copyright(C) 2011 NAGOYA UNIVERSITY, GRADUATE SCHOOL OF LETTERS

• .....

---

..... •